

# 山田みやこの活動報告

令和6年8月22/23日

## 民主市民クラブ 県外調査 鳥取県

### ローカルエナジー株式会社視察

地域特性を生かした「まちのエネルギーをデザインし、地域内資金循環を実現する」事業として、鳥取県米子市・境港市及び地元企業5社の出資により、エネルギーの自立・地域貢献できる企業をめざしている。

#### 1) なぜ、米子市にエネルギー会社を作ったか

地域が抱えていた人口流出・経済の衰退・気候変動(CO2削減)の課題があった。

鳥取県の電気代約1,000億円/年の流出。そのため、地域内で資金を循環させる仕組みへ転換。直面している問題を“ジブンゴト”として考えはじめ、エネルギーの地産地消による地域資金循環をする。

#### 2) 地域で実践する「エネルギー事業」として

エネルギーは地産地消・知見・ノウハウを蓄積、

共有し、地域に新しい価値を創出。

米子市・境港市の2市+生活を支える

インフラの5企業(中海テレビ放送/

山陰酸素工業(株)・三光(株)・米子ガス

・皆生温泉観光(株))でローカルエナジー

(株)を設立。

#### 3) ローカルエナジー株式会社

電力小売り、卸売事業が中核。

公共施設の電気使用量に相当する再生可能エネルギーを地元で調達。電気の需要量と供給量を一致し、需要管理する地域密着型電力会社。流出していた付加価値を地域内へ。

女性活躍・UIターン・テレワーク等、新たな働き方創出。

ゼロカーボンシティへの貢献として、RE100電気の供給を開始。

(※RE100とは再生可能エネルギー100%の電力で賄うこと)

現在、スターバックスの3店舗へRE100電気を供給。

次世代人材の育成として、小学校環境教育(電気のプログラミング)、高校生大学・大学への講演実施。企業版ふるさと納税、自治体視察受け入れ等実施。

エネルギー供給システムが大きく変化している。

①小規模な供給源②分散配置③多方向のエネルギーの流れ④自立したエネルギー管理  
地域のエネルギーを効率的に利用し、地域外の資金流出を削減。災害時は非常用電源として活用し、回復力に寄与。



#### 4) 脱炭素先行地域への挑戦

2022年4月26日 米子市・境港市・ローカルエナジー(株) 山陰合同銀行の共同提案により、脱炭素先行地域に選定。

ローカルエナジー(株) が事務局を担い、脱炭素先行地域推進協議会と分科会を運営し、2030年までに地域課題を解決しながら、CO2排出実績ゼロを実現していく。

※ エネルギーを売る会社から“まちづくり”を行う会社へファーストペンギンの役割として、自治体と地元企業による連携と互いに責任を持ち、主導している。

信念、目的を持つ人材に人は集まる。

地元企業を中心にして、そこに自治体がバックアップするという官民一体の取り組みである。